

令和 4 年

# 第 8 回教育委員会会議録

(開会 令和 4 年 7 月 25 日)

(閉会 令和 4 年 7 月 25 日)

岐阜県可児市教育委員会

令和4年7月25日午前9時00分開会

会場：市役所4階第3会議室

### 出席委員

堀部好彦君（教育長）

小栗照代君（教育委員）

伊藤小百合君（教育委員）

丹羽千明君（教育委員）

長井知子君（教育委員）

### 説明のために出席した者

渡辺勝彦君（事務局長）

佐野政紀君（学校教育課長）

上北泰久君（学校教育課主任指導主事）

真野純次君（学校教育課指導主事）

飯田晋司君（教育総務課長）

佐藤一洋君（学校給食センター所長）

三宅愛彦君（教育研究所主任指導主事）

福田真弓君（学校教育課学校支援係長）

### 出席委員会事務局職員

木村彰伯君（教育総務課総務係長）

小池拓哉君（教育総務課総務係）

### 日程及び審議結果

1 開 会

2 前々回、前回会議録の承認

3 教育長報告

4 教育委員報告

5 議 事

①議案第17号 令和5年度使用教科用図書の採択について（原案可決）

②議案第18号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について（原案可決）

6 各課所管事項

7 委員からの提案協議事項

8 その他

9 閉 会

### 開会の宣告

- 教育長（堀部好彦君） おはようございます。  
第8回の教育委員会会議を開催させていただきます。  
定足数につきましては、出席委員が過半数を満たしておりますので、この会議は成立するということによりまして、よろしくお願いいたします。

### 前々回、前回会議録の承認

- 教育長（堀部好彦君） 前々回、前回の会議録の承認について、教育総務課長お願いします。
- 教育総務課長（飯田晋司君） 前々回、前回どちらも変更はございません。
- 教育長（堀部好彦君） どちらも変更なしということによりまして、よろしくお願いをします。

### 教育長報告

- 教育長（堀部好彦君） それでは、教育長からの報告でございます。

大きく4点をお願いします。

報道等で御存じのとおり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が第7波ということで、第6波を凌駕する勢いで今拡大しています。大変心配をしております、休み中もコロナの報告等いろいろ入ってきますが、コロナ感染により、部活動の大会等の出場を見合わせるようなことがあるとかというような話も聞いております。子供たちのいろいろな活動に、少しでも支障がないようにということを祈るばかりです。加えて、熱中症も心配ですね。これもこの土・日、部活で熱中症により緊急搬送という話も聞こえてきます。大事に至らずよかったですけれども、子供たちの夏休みも、コロナと熱中症で楽しい時間が奪われるということがあるのかなあとということで心配をしております。これが1点目です。

2点目は、今夏休みの話もしましたけれど、これで子供たちも夏休みに入って、授業終了日を迎えたということで一応の区切りを迎えております。教育委員会、4階のフロアに来ておられる校長先生にちょっと声をかけて話をしたりだとか、校長先生のほうから私のほうに声をかけてくださったりというようなことで、いわゆる1学期の様子を校長先生方がいろいろ話をしてくださって、その校長先生方が大変元気でありがたいなあと思っております。きっと教育委員さん、学校訪問されて、校長先生が元気で、いろいろなことは抱えておられるんですけども、元気でやっておられる様子も見ておられるんじゃないかなあと思いますが、教育長としては、子供たちが元気に、教諭が元気にということはあるんですけども、私としてはやっぱり願うのは、まず校長さんが元気で笑顔で頑張っておられることが大切かなあと思うときに、可児市の16校の校長先生方、様々な課題を抱えながら奮闘されているんですけども、健康で元気で頑張っておられることは大変ありがたいなあと思っております。夏休みも子供たち、先生方が充実した休みを取られることを願っております。これが2点目です。

3点目ですが、7月15日、私と渡辺局長でばら教室の修了式に参列をしました。今年度初めての修了式、私は参加をさせていただいた。過去にも何回か参列をしましたが、

今回も、修了する子供たちが本当に目標を持って在籍の学校に向かう気持ちが伝わってきて、大変うれしかったです。今回の研究所日より、今机上にお配りしてあると思うんですけれども、カラー刷りの研究所日より、ちょっと見ていただくと大変ありがたいんですが、はい、それです。ありますか、皆さん。それです。

巻頭言を私書かせていただいたんですけれども、ばら教室の指導員のことを書かせていただきました。今年採用された18歳女性指導員は、フィリピン籍の方です。中学校のときに日本に来て、それで蘇南中学校、そして東濃高校、6年間学校生活を送って、それで指導員を志して、見事合格して、この4月からばら教室の指導員なんですね。つまり、ばら教室で学んだ外国籍の子が、今ばら教室の指導員をやっておられるということで、ほかの指導員の方々や室長さんは、この子は本当に私たちの自慢の子やと、可児市の宝やなんていうふうに言っておられます。

私は、そんな話を聞いて興味があったので、その子と1時間ぐらい時間を取って話をさせてもらいました。本当に6年間頑張った様子を聞いてうれしかったんですけど、同時に、この6年間で成長したことはどんなことと最後に聞いたんですよ。そうしたら、彼女は首をかしげながら、最初は「ジ、ド、ク」なんていう言い方をしていました。ジドクって何やろうと思っておったら、もう一回言い直してくれて、「自立」と言ってくれた。彼女は6年間で自立できたこと、これが自分の成長だと。日本で自立して生きていく足がかりをつかんだ彼女に、本当に拍手を送りたいなあと思っています。そんな気持ちで、笑顔のもとにもちょっと結びつけながら書かせていただきましたので、また読んでおいてください。

ばら教室の修了式に、ある小学校の男の子なんですけれども、修了式で、自分でこれからの夢とか頑張りたいことを語ってくれるんですが、その中で、その子がばら教室の先生になりたいですと言った。つまり、この18歳の指導員の存在が影響しているんだろうと室長さんも言っておられます。この指導員が可児市の宝ということもあるんだけど、外国籍児童・生徒の希望の星にもなっているなあということを思って、大変いい話を聞かせてもらいましたという報告でございます。これが3点目です。

それから4点目ですが、せんだって新任教育長・教育委員の研修ということで、コロナで行われなかったこともあって、今年、昨年度と今年度分ということで新任の教育長・教育委員の研修がございました。教育委員会制度の改正が主なテーマで講話をお伺いしましたということで、簡単に報告をさせていただきます。

私からは以上です。

## 教育委員報告

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、教育委員報告ということで、小栗委員からよろしくをお願いします。
- **教育委員（小栗照代君）** おはようございます。

前回御報告した以降の教育委員の学校訪問をしまりまして、その様子を御紹介させていただきたいと思います。

私は3校回らせていただいたんですけれども、共通する部分としては、やはり先ほど教育長がおっしゃったように、先生方一生懸命、校長先生も本当に元気にやっていた

いているなという印象を持っております。それ以外にいろいろな問題点などもお伺いしてきたんですけど、やはり先生の人数が足りないということと労働時間の問題ということは、やはりどこの学校でもおっしゃっていました。

それから、先ほども出ました熱中症というお話なんですけれども、暑いので、エアコンを入れたいけれども、やっぱり電気代もかかるというようなお話もございます。こちらのほうは多分事務局のほうでいろいろと御対応いただけると思うんですけれども、そういったお話もございました。

それから、先月も御報告したんですが、マスクを外さないというところは、やはりどこの学校でも問題に思っているんじゃないかと、今部活などは多分マスクを外していると思うんですが、また授業が始まったときに同じような状況で、先生方御苦労されるのかなと思いますので、引き続き安全なところではマスクを外すような御指導をしていただくということでございます。

それから、修学旅行や運動会や体育祭について、今年は開催するというので、気をつけながらどこの学校も開催していただけるというお話を伺ったり、それからもう既に開催して、無事に終わって、大変すばらしく開催できたというような学校もございましたので、いろんな行事も復活してきて、進んできているんだなあということで、本当に先生方の御努力で開催していただけて、ありがたいなあと思いました。

いろいろと学校を回った中で私自身が一番印象だったのが、西可児中学校の校長先生のお話だったんですけれども、先生のどなり声は一切学校の中ではしないということをおっしゃいました。押しつけない、決めつけない、叱りつけない学校ということを目指す学校像ということにしていらっしゃって、頭ごなしに非難したりとか、否定しないというようなことを校長先生自らがおっしゃっているの、それをやはり先生方もしっかりと受け止めていらっしゃると。こういった具体的な目標をかざしていただくと、そういうことによって学校に行きやすくなったり、それから「笑顔の“もと”」になったりということにつながってくるんだろうなあということで、なかなかここまで言い切るというのは難しいんですけれども、それをしっかりと進めていただいているというのは、一つの例として本当にありがたくて、ぜひこのまま推進していただきたいなあと思いました。

各学校を訪問させていただいて、先生方、各校長先生の思いによって、空気感とか、学校の色が違うなというのは、今回特にひしひしと感じました。ポジティブな思考だったりとか、資質とかで、進歩的だったり、心理的にいろいろ変えていこうと思ってくださる校長先生もいらっしゃいますし、それから、今までのいいものをそのまま保守的に維持して頑張っていこうと思っていられる校長先生の方針であったりというところで、いろいろな学校の姿が見えたというので、今回の訪問が大変勉強になったなあと思いました。

次回の見直しとして一つ思いましたのが、ICTをやっているところを見せてくださいと御依頼をしていただいていたんですけれども、そうしますと、どうしてもその学校の高学年のところでICTを、要するにタブレットなんかを使っている授業を見せていただくということだったので、どこの学校もはっきりと同じような形のところを拝見させていただいてしまったのかなあと感じています。ICT授業に限らず、ラフにふだん

のいろんな授業も見せていただけるように次回はしていただけると、より一層子供たちの状態とか、先生方のふだんの姿を拝見させていただけるのではないかなと思いました。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** 大変多面的に報告をしていただきました。学校訪問、非常に有益なものになっているんだなあということを感じました。

校長先生の人となりも含めて触れていただいたことはとってもよかったなあと思うんですが、私も教育長訪問のときに申し上げているのは、一つの大きな目的は、校長の教育観に触れたいと。学校というのは、校長の教育観のように変わっていくと思っています。今、小栗さんが言っておられたいろんな校長先生方の考え方とか、言っておられることというのは、まさに校長の教育観から発せられる言葉ではないかなあと思っています。そんなことを思いながら、私も訪問をさせていただきました。

あと行事についても、宿泊行事についても5月、6月でやっていただいて、7月も含めて、大変ありがたいなあと思っています。これが9月、10月も計画している学校があるので、11月もね。何とかやれるような状況になっていることを本当に祈るばかりです。ありがとうございました。

- **教育委員（長井知子君）** おはようございます。よろしくお願いします。

私も学校訪問についてお話しさせていただきます。

すごく印象に残ったことが、ある学校で、教頭先生が自分の思うように教育ができないと言われたので、それはどういうことですかとお聞きしたら、自分は昭和時代の生まれで、私もそうですけど、昭和時代は根性論というのがあって、私もすごく根性論が好きなので、言いたいことはすごく分かったんですけど、やっぱり今の時代、私も自分の子供を見ていても思うんですけども、根性論というのがまたちょっと違ってきている。頑張るという意味のニュアンスだとか、今、流れるに頑張らなくてもいいというのがあって、でも、頑張らなくてもいいというその意味、伝え方がやっぱりすごく難しいと言われていて、ああ、なるほどなあと思いました。

校長先生や教頭先生のお話を聞いて、誰にも言えない胸の内を教えてください先生もいらっしゃって、本当にそういうところを引き出して、すくい取っていく。って上から目線になっちゃいますけど、じゃないと、先生方も現場で、教員数が足りない中でぎりぎりのところで働いているので、きっといつか潰れちゃうんじゃないかなあと思いました。本当にどの学校に行っても教員数が足りないということを言われていて、こればかりはどうしても市があり、県があり、国がありという問題なので、難しいのかもしれないんですけども、何とか少しでもいいふうにいけるといいなあと思いました。

あと、今タブレット支給でICT化が進んでいる中、学校でも出欠席をパソコンで取っているから、すごく教員の仕事も楽になりましたとおっしゃる学校もあったんですけども、また違う学校に行ってみたら、今そういうシステムをつくっていませんと言われる学校もあって、私は詳しく聞いていないので、もしかしたら違うかもしれないんですけども、先生方も情報交換で導入されると、先生方の仕事もまた一段と減るんじゃないかなあと思いました。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございました。

長井委員さんも、本当に学校訪問でいろんな方の本音を引き出して、本音をつかんで

いただいて、これも大変ありがたいことで、すばらしいなあと思ってお聞きしました。

根性論の話ですけど、先ほど桜島の話をしたんですけど、昔、家族旅行で桜島へ行って、車を運転しておったんですけど、レンタカーを。それで学校の前を通ったときに、校訓で3つほど、ばんばんとでっかく看板が校舎に掲げてあったんだけど、その中に「根性」とあってね。あのとき、もう平成になってからだったかな、あれは。平成の初めの頃に見ただけど、そのときにもう自分自身では根性かあ、これはもう死語に近いなあと思った覚えがあるんです。だから、その先生のお気持ちも大変よく分かるし、教育というのは、どんな社会にしていくのかという、そのときそのときの社会に求められるというところもあるので、それぞれの先生や校長も含めて、求められる教育の在り方ということについては、学び続けることが必要ななあということも思いました。大変ありがとうございました。勉強になりました。

○ **教育委員（伊藤小百合君）** おはようございます。よろしく願いいたします。

私も学校訪問をさせていただきまして、なかなかふだん行けない学校の話もさせてもらったりとかすることがありまして、そういうお話が出たんですけど、出欠の管理とかもしているというところでちょっと追加というか、付け加えなんですけど、県の校務システムを使って、学校、校内の先生方の意見を吸い上げるということをしている学校があって、それはすごくいいなあと思って、そこに入っていけば、例えばこういう子がいて、こういう子の対応はこういうふうにしたらいよみたいなアドバイスのこととか、困っていることとか、そういうのも載せてあるらしくて、見るのはほとんど校長先生と教頭先生らしいんですけど、そういうちょっとしたこと……。

○ **教育長（堀部好彦君）** その学校の職員のということやね。

○ **教育委員（伊藤小百合君）** そうです。

○ **教育長（堀部好彦君）** その学校の職員のね。

○ **教育委員（伊藤小百合君）** そういうことが、やっぱり子供に対する共通理解とかを持てるので、すごくいいなあと思って聞いていたんですけど、割とそういうものも校長会とかで、なかなかお話しする機会がないかもしれないんですけど、そういうのを市内の中でやっていますよという、知っているのかもしれないんですけど、広げていってもらおうと、いろんな学校でそれぞれの学校の意見が吸い上がっていいのかなあというのは感じました。

またこれは別の学校ですが、先月、尾木ママの子育て相談会に保護者として参加したんですけど、西可児中学校でその話が出ました。前日に尾木ママが西可児中学校に行って、子供たち、生徒会の子たちと交流したという話があったので、そこでとてもいいお話を聞いたので、校長先生はじめ、一緒に出席された先生方にもお伝えしたんですけど、子供たちが、不登校とか行きづらい生徒に対してどういうふうに接したらいいかという対応を尾木ママに求めたということで、なかなかそういう視点で質問できるのがすごいという話がありまして、その中で、学校経営の話にもつながっていったんですけど、西可児中学校の学校経営だと「一人一人が輝く」という言葉があったんですけど、普通だったら「輝け」という命令口調っぽいようなことになるんですけど、そういうふうじゃなくて「輝く」。みんなで積み上げていくというか、つくっていくというふうで、支えたり、認めたり、挑戦したりするというのを話されていまして、支援に必要な校風

や、巻き込んでいく校風は、すごいすばらしいというのを尾木ママが言ってみえたんです。ということのを他の先生方にお伝えしたら、すごい喜んでみえて、でもそれは今までの積み重ねがあったりとか、今、校長先生が替わられて、また経営方針がプラスで変わってきたというのもあると思うんですけれども、いいふうに生徒たちが動いているのがすごくいいなあと感じて、お話をしてきました。

あと、教育訪問に行ったときに、南帷子小学校で、グラウンドを挟んでわんぱく山という山があるんですけれども、そこで算数の授業を行うというのを耳にして、ちょっと先生にお話しして、不思議だったので、どういうことをするのかなどと思って、行ってちょっと見せてもらいました。

そうしたら、対象が6年生だったんですけれども、行くまでは何も知らないで行ったんですけれど、実はその前に算数で体積の勉強をしていたらしくて、その山に登って、竹とかがいっぱい生えているので、1,000立方センチメートルにするにはどれぐらいの竹を使ったらいいか。グループに分かれて、1メートルぐらいの長さのあるひもとかを渡されていて、細かいものが欲しい人は、一緒にやってくれている県のアカデミーか何かの人が来ていたんですけど、その人たちに聞いてもいいけど、大体でいいと、それは。正確なものじゃなくて、近いものでやればいいという話で、その竹も、円の部分が大きかったりとか、細かったりとか、細ければ長いものが必要だし、太ければ短いものというのが最終的に来るんですけど、その竹も自分たちで切ってつくるというのをやっていて、ああ、こういうふうに算数でつなげていって、やっぱり自分たちでいろいろ調べたりとか、座学だけじゃなくて、実際につくってみたりとかしてやる経験って、とてもいいなあと感じたので、これからも少しずつできればやっていきたいというお話はしていましたので、ぜひ続けてほしいなあというのを思いました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

伊藤委員さん、大変詳しく観察というか、訪問で参加されているのが大変よく分かりました。

今、体験を通して学ぶということが大切にされているんだけれども、可児市の小学校・中学校でも、そういった考え方を大切にしていきたいなあとの学校も考えてやっているといます。その一つの象徴的な姿が今のような姿なんだろうし、それから関わるということも、関わり合いをお互いに大切にすること、可児市の学校は大切にしているなあということをも私も肌で感じています。

尾木ママがすばらしいねと言っておられたあの様子は、どの学校でも、全部の中学校あります。だから、尾木ママはほかのところへ行っても、きっと驚かれるのではないのかなあと思います。

本当にそれぞれのすばらしい訪問の成果を感じております。具体的な視点をきちっと持って訪問してくださっていることもよく分かりました。本当にお疲れさまでした。ありがとうございます。

では、丹羽委員さん、こちらへ見えてから、そのときに報告していただくということでお願いをします。

## 議事



- **教育長（堀部好彦君）** では、次に議事に入ります。
- **事務局長（渡辺勝彦君）** それでは、議案書を御覧ください。

表紙の裏ページの目次のとおり、本日は議案が2件です。

議案第17号 令和5年度使用教科用図書採択について、議案第18号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、以上2件についてよろしくお願ひします。

- **教育長（堀部好彦君）** 議案第17号 令和5年度使用教科用図書採択についてに関しましては、意思形成に係る情報であり、外部からの働きかけに左右されることなく、的確な審議環境を確保する必要があること、議案第18号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について及びその他の児童生徒校内事故、問題行動、交通事故等の記録については、個人情報やプライバシーに関する情報のため、教育委員会会議規則第14条の規定により非公開とすることにしたいと思ひますが、御異議ございませぬか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議がないようですので、以上3点については非公開といたします。

### 各課所管事項

- **教育長（堀部好彦君）** 続いて、各課所管事項に入ります。
- **事務局長（渡辺勝彦君）** それでは、私から2件お話しします。

1つは、予算関係です。電気・ガス料金等の高騰による光熱水費の予算増額の関係で、9月の補正予算に位置づけてもらうよう予算要求する予定です。中身についてはまた8月の会議で教育に関する予算の意見をお願いする方向で考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

それからもう一点は、先ほど教育長からもお話がありました、全国的に感染者数の増加傾向が見られます。7月21日から小・中学校は夏季休暇に入っておりますが、前日の7月20日には、岐阜県を含め各県で過去最高の陽性者となり、岐阜県ではこれまでの千数百人から2,594人という倍以上の数字になっております。7月15日の県のコロナ対策会議では、感染防止対策と経済活動、両面の維持ということが引き続き言われておまして、過去に取られていたような不要不急の外出などの行動制限はされておませんが、会食は同一テーブルで4人、2時間以内が目安といったようなことはまた県のほうから示されております。

参考に、お手元のグラフの資料を御覧ください。令和3年度のほうをまず見ていただきますと、小・中学校で昨年1年間トータル600人ほどの陽性者が出ております。その間月ごとでみると、4月・5月、9月までは50人も行かないような人数で、1月以降にいわゆる第6波ということで大幅に人数が増えました。裏面の令和4年度を見ていただきますと、もう既に4月から150人近くの陽性者が出ておまして、4月・5月ともに150人超え、6月には若干68人ほどに減っております。しかし、7月は21日までの数字でもう既に160人を超えております。ここ数日間でまたさらに数十人増えておりますので、昨年よりもかなり多くの陽性者が出ているというような状況です。国からの学級閉鎖の条件が緩和された関係で、昨年度のような学級閉鎖は取っておりませんが、今後も警戒していく必要があるかなあと思ひています。

学校や保護者の皆さんには、夏休み期間中の心構えを夏休み前にお伝えしております。

夏休み中の注意喚起に加えて、夏休み明けには引き続き学校での感染防止対策の徹底を図っていききたいということでよろしく願いいたします。以上です。

- **教育総務課長（飯田晋司君）** 私からは1件ございます。

先ほど、教育委員さんの報告でもいろいろ深くお話しいただきました。教育委員さんの学校訪問、6月13日の東明小学校からスタートして、7月5日の旭小学校を最終に小学校11校、中学校5校、瀬田幼稚園を合わせて17か所終了いたしました。暑い中、大変非常に熱心な質疑応答など各校していただきまして、誠にありがとうございました。

本日、委員さんからの報告の中にいただいた御意見などを参考にさせていただき、次年度に生かしていきたいと考えております。また、現在訪問の概要結果を取りまとめ中でありまして、また後日、御確認いただく予定をしておりますので、御協力よろしく願いいたします。以上でございます。

- **教育長（堀部好彦君）** ログマークの件はいいですか。

- **教育総務課長（飯田晋司君）** 笑顔のものとロゴマークですが、8月1日号の「広報かに」に、各学校からの作品、全部で27作品なんですけれども、教育総務課に上げていただいたものについて、投票で数点に絞り込むという形での広報、依頼を出させていただきます。市のホームページのほうにも出すんですけれども、そちらで数点に絞りまして、その後、審査をして、最優秀の作品の1点を決めて、ロゴマークとして使用していくという予定であります。また、委員の皆様にも御案内させていただきたくて予定しておりますので、よろしく願いいたします。

- **教育長（堀部好彦君）** ログマークの各校の現時点で出そろっているあの作品、カラー刷りで今この会議が終わるまでに配付できませんか。

- **教育総務課長（飯田晋司君）** では、配付するように準備いたします。

- **教育長（堀部好彦君）** ぜひよろしく願いをします。

5月・6月の中学校の2年生、美術の授業で、笑顔のものをイメージしたロゴマークを制作する授業をさせていただきました。学習指導要領の中にも、そういったロゴマークの作成を通じて、子供たちのイメージ的な見方や考え方を引き出すというような授業もあるものですから、それを笑顔のものとロゴマークでやってよとお願いをしたら、やってくださいました。作品が出そろって、その作品に込めた思いを書いてくれたものがあるものですから、またぜひこれを読んでおいてください。8月の初めからの1週間ですかね。

- **教育総務課長（飯田晋司君）** 2週間です。

- **教育長（堀部好彦君）** 2週間で市民による投票ということで、数点を選んで、その中でまたさらに教育委員会事務局で選んでいくということのようですので、またホームページも見ていただけるといいんじゃないかなあと考えております。

丹羽委員さん、また後で報告の時間を取りますので、お願いします。

- **学校教育課長（佐野政紀君）** お願いします。

それでは、6月20日以降の学校に関わる動きをお話しさせていただきます。

先月の教育委員会会議でもお話しさせていただきましたが、先月に引き続き教育長訪問を行いました。土田小学校、春里小学校、中部中学校、東可児中学校、旭小学校、南帷子小学校、西可児中学校、そして広陵中学校を最後に8校、2か月にわたりましたけ

れども、市内全ての学校の全ての学級の授業参観、及び校長との教育長懇談を実施することができました。

先ほど教育委員の皆様からも、学校の訪問をそれぞれのお立場で見ただきながら感想をいただいたことと総じて感想は似るわけですが、可児市の子供たちは落ち着いて授業に取り組んでいます。教職員もよくやっただきしていると思います。

コロナに関わる情報としましては、最後にちょっと紙面でお話をさせていただきたいと思いますので、後ほどお話をさせていただきます。

中学校体育連盟、中体連ですけれども、大会に向けた取組も大会中も、先ほどお話ありましたが、熱中症対策、感染症対策を取った上で進めていただいているところです。私自身、蘇南中学校を会場にして行われた女子バスケットボールの試合を参観させていただきました。体育館内の保護者入場制限は、各校5名です。コロナ前は、もう本当にフロアも2階席のところも保護者で、本当に熱い声援をいただきながらというところでしたが、コロナの状況の中で工夫をいただきながらの運営になっております。

驚きましたのは、バスケの試合だったんですけれども、プレーヤーの中にマスクをして試合をしているプレーヤーがいました。先ほど、なかなかマスクを外すことの難しさをということでお話をいただいたんですけれども、学校は繰り返し様々な配慮をしながら、適切にマスクのつけるつけないという判断を子供たちに指導しながら、委ねるわけなんですけれども、やはり個々の考えがあるかなあということが実際です。継続して指導していきたいなあと思っています。

21日より夏休みに入りました。2年前は、7月中は授業でした。そして8月17日、お盆明けてから授業開始日になったということで、本当に短くなっていた対応の2年前でしたけれども、本年度は昨年度に続き例年どおりの夏休みです。学校に日直を置かない日というのがあります。8月8日から15日までとすることで、土・日を含めて8日間は休むことができるようにしています。県の主催する会議や研修を実施しないことになっておりますので、学校も教職員も夏季休業や年休等を使ってリフレッシュする期間を取っていただき、8月29日からの学校の始まりに備えていくことになります。

最後に、コロナに関わる情報としまして、少し紙面を配付させていただきますが、あらかじめ置かずにおし訳ありませんでした。

今お配りしました紙面ですけれども、右上の日付が7月15日になっております。見出しは、新型コロナウイルス感染症感染再拡大時の学校の対応についてということで、可児市教育委員会と、それぞれの可児市立学校長という連名でこの文書を発出させていただきました。

7月16日から、最初のリードのところの下線を引いてあります。「今後は、県から指示があり次第」というこの下線が、実は7月16日からということでした。感染再拡大時というのは、1日当たりの新規陽性者数が1週間で700人を超えた場合を言います。この700人を超えた場合、このように対応していきますよという案内をさせていただきましたので、7月16日からの運用になるわけなんですけれども、市内の学校はどうなったかといいますと、19日と20日に広見小学校、南帷子小学校、桜ヶ丘小学校が学級閉鎖になりました。広見小学校は少し広がりまして、ある学年は学年閉鎖で対応をしたということです。今は、この対応に加えまして、7月22日に報道がありましたけれども、厚生

労働省が濃厚接触者の待機期間を原則7日から5日に短縮するという決定になりましたので、この16日からの適用のガイドラインに加えて、夏休みに入りましても対応が刻々と変わっているということです。この対応について、学校には理解をしていただきながら、今きちっとした対応をしていただいているところです。

私からは以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

○ **教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君）** よろしくお願いたします。

では、別冊の資料になります教育研究所よりの冊子を御覧ください。

まず1枚はねていただいて、3ページを御覧ください。

真ん中に表がありますが、この夏に教育研究所及びa1aが主催する夏期研修講座になります。現在はコロナが再拡大しております。表の中ほどに参加者数がありますが、参加人数の多い研修はウェブ研修に切り替えたり、参集型の研修では広い会場を取って、1メートル以上の間隔を空けたり、長時間近い距離での対面活動を行わなかったりするなど、感染防止対策を講じながら研修を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

次、4ページを御覧ください。

笑顔のもと重点事業についてです。

(1)不登校対策として、スマイリングルーム運営委員会を行わせていただきました。その中で、可児市スクールカウンセラー・スーパーバイザーの川原先生から、このような話がありました。今の不登校の子たちは、いじめがあったとか、友達とのトラブルがあったなどの明確な理由がある子よりも、思っていることが口でできないなど、その子の特性によって不登校になっているケースが多く見られるという話がありました。

また、会では、市全体の不登校者数の8割が、学校にもスマイリングルームなどの外部機関にも、どこにも行けていないという現実があり、その8割の子をいかに救っていくかということについて話題となりました。その8割の子は、どこにも行っていないわけですから、接する大人というのは先生ではなく、保護者となります。よって、その家庭が持っている雰囲気、言わばその家庭の文化とも言えると思いますが、そこにアプローチしていく必要があるということが話題になりました。

4ページの資料には、川原先生からお話いただいた欠席がちになった子の保護者へということで、アドバイスをいただきましたので、校長会や教頭会で伝えていきたいなあと思っております。

さらに、現在進めていることとしましては、川原先生のこれらのアドバイスを何とか直接そういう保護者に届けるように、講演会のような形を行いたいと研究所で計画しております。できれば、それも複数回行うことで、不登校の子供を持つ保護者の口コミで講演会のよさが広まり、参加者を増やしていければと思っております。

また、ウェブ配信なんかもして、スマホでも参加できるように、川原先生の話が聞けるようにして、何とか保護者へのアプローチというものを考えていきたいなあと思っております。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

○ **学校給食センター所長（佐藤一洋君）** 学校給食のほうですが、7月20日で1学期

の給食が終わりということになりました。今年は異物混入が起きまして、必ずしも順風満帆ではなかったのですが、一旦区切りということで、ほっとしているところです。

ちょうどコロナで広見小学校の学年閉鎖とか、あと2校ほど学級閉鎖が最後に出ました。最後に給食を食べてもらえなかったというのはちょっと残念ではあったんですけど、2月、3月の頃と比べると、何とか乗り切ったのかなあと感じております。

私からは以上になります。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

各課からの報告等につきまして、御質問、御意見ございますでしょうか。

○ **教育委員（長井知子君）** 先ほどの中体連のバスケのときにマスクをしていたというのは、女子ですか、男子ですか。

○ **学校教育課長（佐野政紀君）** 女子です。1人だけ。体育館のフロアの中で、2コート使って、4チーム対戦する形なんですけど、まさかいないだろうと思って一人ずつ口元を見てみましたら、1人だけいました。どうやって呼吸するのかなと。こうやって呼吸していました。エース級の子でしたけれども、やっぱりつらいんだろうなと思いました。こうやって呼吸をして。なぜ彼女がマスクを外さないのかということまでは、観戦している立場におりますので、見届けまではできませんでした。

○ **教育委員（長井知子君）** やっぱりどこの学校に行っても、女子のほうがマスクを取ることに抵抗があるというふうに言われていたので。

○ **教育長（堀部好彦君）** そうですね。私がかつて勤めていた中学校で、コロナの時代ではなかったんだけど、ずうっと入学からマスクをしている男子生徒がいたんだけど、ずうっとしておるなあと、取れんのかと聞いたら、今さら取れないという言い方をしました。今、幼児からマスクをしなさいということで、幼稚園・保育園でもしていますよね。そういった子たちがマスクについてどんな見方を持つてしまうのかというね。本当にこれは大きな問題になっていくんじゃないかなあと思います。今さら取れないという。いろんな子が出てくるんじゃないかなあとはいいますね。

ほか、ありませんでしょうか。よろしいですか。

○ **教育委員（長井知子君）** もう一ついいですか。

研究所のお話なんですけど、4ページにあった不登校対策のスマイリングルーム運営委員会の件で、この川原先生のメッセージ、すごくいいなと思いました。やっぱり子供に対して初めて経験する親さんとかが、どう接していいとか、きっとネットとかでも調べていると思うんですけど、こんな方法があるよ、こうしたほうがいいよという指南があると、明るい道が開けたような気持ちになるんじゃないかなあと思ったので、こういったプロの方からのアドバイスはすごく心救われる一つ的手段だと思いました。

あと、その講演会を何回かやっていくという中で、口コミで伝えていくとありましたけれど、私は素人なので、ちょっととんちんかんことを言うかもしれませんが、不登校の子のお母さんとかって、どっちかという閉鎖的になっちゃうかなあと、自ら勉強会とかには行ったりすると思うんです。その中で、口コミって広がるのかなあと、ふと何となく思ったので、きっとこういう講演会とか、お母さん方が一番求めていることだと思うんですけど、こういった川原先生からのお話とか、すごくいいお話とか、心救われる話を聞くのに、何かもっとももっといっぱい広がるといいなあとと思いました。

- **教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君）** ありがとうございます。私の説明不足でした。申し訳ございません。

実は川原先生、今までも各学校の家庭教育学級に行かれて、いろんな話をしてみえます。本当にいろんな高い知見を持ってみえて、本当に川原先生の話の聞くと、よかったという話をよく保護者からも聞きます。川原先生自身、行って話すんですが、やっぱり毎年同じ方のように感じたり、家庭教育学級に参加される親さんですから、すごい意識高くて、そういう親さんだけじゃなくて、やはり今、長井さん言われるように、不登校の子を抱えてみえる親さんにいかに届けるかというあたりを川原先生も悩んでみえたところなんです。

ですので、いきなりロコミとかではなくて、まずは各学校の不登校担当と連携しながら、ピンポイントにその親に対してアプローチをする。チラシなのか、声かけをするのか、まずはあるよと来ていただけるようにする。でも、おっしゃるように、1回目から来られない方もいらっしゃるというところで、去年まで西可児中学校で教頭をやっておったんですが、不登校の保護者との対応って、結構厳しいところがあるんですけど、保護者同士のつながりって、間々あるんです。なので、それも生かせるように、先ほどロコミで広がらんかなあという話もしました。また、それだけではなくて、スマホだったら気軽に見られるんじゃないかなあということもいろいろ考えながら、保護者にアプローチできる方法を、学校だけにお任せではなくて、やっていきたいなと思っております。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** 補足ありがとうございます。

この件につきまして、またほかの件でも結構ですが、先ほどの各課からの報告につきまして御意見等ありましたらお願いします。

よろしいですか。

〔挙手する者なし〕

不登校は大変大きな問題、課題だというふうに捉えておるわけですが、積極的に委員さんが、この問題について御自身のお考えをいろんなところで、こういう場でお聞かせいただけると大変ありがたいです。どうもありがとうございました。

先ほど申し上げた笑顔のもののロゴマークの件ですが、今、机上に配付をさせていただきました。ぜひこれを御覧ください。子供たちが笑顔のもとについてどういう考えを持っているのかということも、このデザインのテーマを読むとよく分かります。本当にいい作品を創ってくださったなあというふうにして、美術の先生方に感謝感謝です。またぜひ御覧ください。よろしく願いいたします。

### 教育委員報告

- **教育長（堀部好彦君）** では、ここで丹羽委員からの報告を伺いたいと思います。よろしいでしょうか。お願いします。

- **教育委員（丹羽千明君）** おはようございます。今日は朝、遅参いたしました。私たちちょっと退席させていただいて本当に御迷惑かけました。どうもすみませんでした。それでは、座ったまま報告させていただきます。

重複することが多いと思うんですけど、またごめんなさい。

学校訪問ということで、残りの11校と瀬田幼稚園、行かせていただきました。まずICTの活用ということで、1年間たったということで、かなり使用頻度とか内容も充実してきたかなあと思いました。

その中で、広見小学校からちょっと言われたんですけど、タブレットを持ち帰りすることが多くなって、故障・修理のことが出てきたと。そうすると、二、三か月修理にかかるということで、そういうときの代替品は十分あるのかなと、また後でお聞きしたいと思うんですけど、そんな話がございました。

それから、どの学校にも、不登校についてどのくらいお見えになりますかというようなことを質問させていただいたんですけど、やはり小学校より中学になってどんと増えるかなと。中部中学校で六、七十名、蘇南中学校で56名という実質の数を聞くと、本当に多いなと実感しました。

それから、兼山小学校で小規模特認校ということで、今年度から始まったわけなんですけれども、1年生が14名ということで、誰がというふうに分からないように、今もう溶け込んで元気にやってみえるということをお聞きしました。

それから、外国籍児童・生徒の増加ということは、今コロナの関係でなっておりますが、分散化をしているなど実感しました。西可児中学校が特に多いかなと考えましたので、また対応していかないかなあと思いました。

あと、教員の多忙感ということで、今一番ネックになっているのが教員不足かなと思いました。新学年始まったときから欠員でスタートして、それから産休の方も見えるというようなことで、ちょうど足りていますという学校も若干あったんですけど、ほとんどの学校が足りなくて、職員室がほとんどががらの状態のように見えましたので、教員というのは本当にもうちょっと採用していただかないかなあと思いました。

あと、瀬田幼稚園がすごく元気に子育てをされて、いいと思いました。気になったのが、定員が105名に対して、一昨年63名、昨年57名、今年48名ということで若干減ってきているということ、それは第一が、お母さんが仕事をされる方が増えたというのが影響しているかなと思いますけれども、園児の人数も注視していかないかなあと思いました。以上でございます。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

それでは、最初にタブレットの故障のことで、これは三宅主任指導主事でいいですか。

○ **教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君）** 杉本指導主事から多少聞いておるところでお話しします。

まず昨年度は、私、西可児中学校にいたときには、よい年で二、三台はいただいていた。壊れたときに、修理に出す間、使ってということでやっていました。またどんどん故障も増えていきますから、昨年度末の補正予算か分からないんですけど、さらに各学校に六、七台、規模によると思うんですけど、西可児中学校だったら6台ほどだったと思うんですが、いただいて、どんどん増やしてはおります。ですが、やっぱりどんどん時間がたてば故障も増えますから、その辺の対応はしていかないかなあとということを思っております。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

兼山小学校のことについて、報告いただきましてありがとうございます。小規模特

認校1年目ということで、私としても成果が既に上がってきているということは大変ありがたいなということをおもいますし、来年度の募集に向けても、また今年度の実践を踏まえたものになるようにということで、これもまた教育総務課のほうで、来年度の募集について、今年度の成果を生かしたものになるようにということでお願いをしたいなあと思います。

それから、教員不足のことはほかの委員さんも話題に上げてくださっております。教育長会等でも声を上げておるところです。県の取組等も少しずつ見えてきているところもありますので、これも今後、学校教育課長から教員不足の対応について県の取組はということで、情報で共有すべきところがあれば、また話をさせていただけるとありがたいなあと思います。

それと外国人児童・生徒の散在、これも可児市の大きな課題のうちの一つとなっております。これについても今いろいろ取り組んでおりますので、これも課題だなあということで、またこれも研究所から報告ということで、次回以降、また連絡をいただけるとありがたいなあと思います。

そして、最後に不登校について、これも皆さん話題に上げていただいたんですけど、教育総合会議でも不登校について話題にしていくということではなかったでしたか。

○ **事務局長（渡辺勝彦君）** 昨年一回取り上げており、引き続き今後の課題ということで終わっていると思います。

○ **教育長（堀部好彦君）** そうですね。市長ともその辺り、可児市の課題を共に考えるような会議になれるといいかなあということも思っておりますので、よろしくお願ひします。

丹羽委員、どうもありがとうございました。

#### 委員からの提案協議事項

○ **教育長（堀部好彦君）** では、続いて教育委員からの提案協議事項を議題といたしたいと思いますが、何かありますでしょうか。

よろしいですか。

〔挙手する者なし〕

#### その他

○ **教育長（堀部好彦君）** では、次に移りたいと思います。

その他ですが、次回の日程等につきまして、教育総務課長お願いします。

○ **教育総務課長（飯田晋司君）** 先月決めていただきました8月15日月曜日午前9時からお願いいたします。場所はここ、4階第3会議室でございます。

続きまして、9月の日程ですが、9月13日火曜日になるんですけども、いかがでしょうか。

○ **教育委員（小栗照代君）** すみません、火曜日は私駄目ですので、お願いします。

○ **教育総務課長（飯田晋司君）** そうしましたら、また改めて調整をさせていただきます。

○ **教育委員（小栗照代君）** すみません。毎週火曜日は駄目なので、よろしくお願ひ



します。

- **教育総務課長（飯田晋司君）** 分かりました。

では、9月につきましては改めて調整して御連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、9月の教育委員会会議の後は、午後から総合教育会議を予定しております。この辺も併せて調整をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。

- **教育長（堀部好彦君）** では、9月については調整をさせていただくということと、同時に総合教育会議も入りますよということで御承知おきください。よろしくお願いいたします。

では、休憩をいつもこの辺りでさせてもらっているんですが、休憩なしということで申し訳ありません。今日はいろいろありますので、御協力お願いをします。

（以下非公開）

（以上非公開）

#### 閉会の宣告

- **教育長（堀部好彦君）** 以上で全て終わりましたので、これにて教育委員会会議を閉会します。ありがとうございました。

閉会 午前10時37分